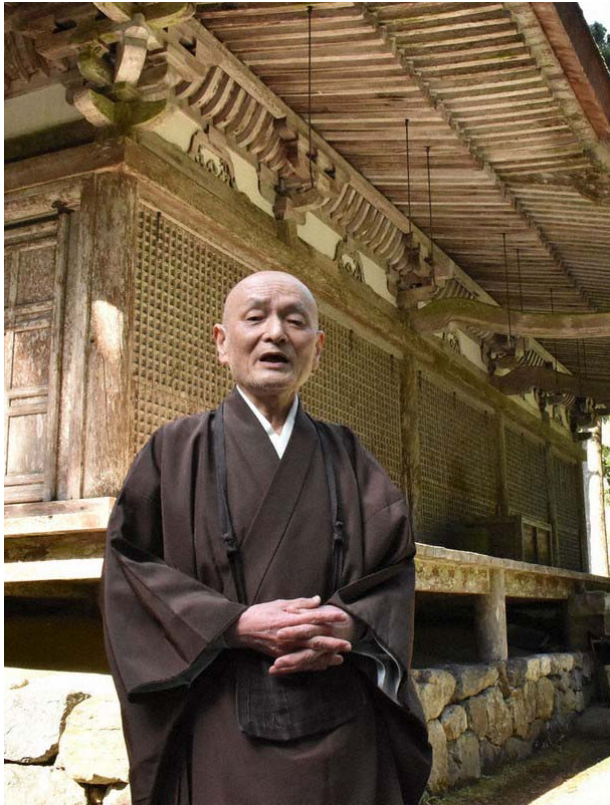


40年超原発 小浜の中鳶さん 慎重論議求め、断食開始 / 福井

毎日新聞 2021/4/22 地方版 福井県



明通寺の本堂前で断食に入った理由などを話す住職の中鳶哲演さん＝福井県小浜市門前で、大島秀利（毎日新聞）撮影

高浜原発1、2号機と美浜原発3号機の再稼働について、小浜市の明通寺住職、中鳶哲演さん（79）が21日、県議会の畑孝幸議長と杉本達治知事に「真摯（しんし）な対応」を求めるとして断食に入った。

中鳶さんは20日、県議会に「老朽原発の稼働再開・延命について、少なくとも拙速な論議・同意を避けてください」との請願書を提出。21

日の毎日新聞の取材に対し「経済産業省は立地地域の新たなエネルギー・環境産業のあり方を秋にまとめる予定で、少なくともその動向を見極めて再稼働の判断をしてほしい」と語った。また、「知事や議会の同意が大事故時の加害責任の一端を問われかねないことを心底憂慮している。関西や中京圏の住民の声にも耳を傾けてほしい」と訴えた。

さらに、今年3月の水戸地裁判決が30キロ圏内の避難計画が不備だとして東海第2原発の運転を差し止めたことで「狭小な地域、少数の住民に同意権を限定することは通用しないのでは」と指摘した。

中鳶さんが原発問題で断食をするのは8回目。前回は2019年春に12日間実施。今回は畑議長や杉本知事が「真摯な対応表明をするまで続ける」と話している。【大島秀利】